

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.11 No.2



河北潟水路の外来植物を除去

- 平成17年度いきづく湖沼ふれあい事業 in 河北潟 -

河北潟湖沼研究所は、今年度、環境省の委託を受けて、河北潟の水質浄化と水生植物の保全プロジェクトを実施しています。具体的には、水辺にふれあいながら、外来植物と枯死した水草の除去作業をおこなうものですが、すでに10月15～16日に第1回目の作業をおこないました。

15日はあいにくの雨空でしたが、16名の方にお集まりいただき、河北潟に10年前に侵入し、現在では湖本体の水面を除く水辺の至る所で巨大な群落をつくっている、外来植物「チクゴスズメノヒエ」の除去を中心に、作業をおこないました。

河北潟の在来種で、今では希少な存在となってしまった「アサザ」、「トチカガミ」、「ミクリ」の残された群落の中にもチクゴスズメノヒエは侵入してきています。今回は、それらの希少植物の群落に絡みつくように繁茂しだしたこの植物を、3箇所ですべて除去しました。

また、水質の汚濁の進んでいる中央幹線排水路では、秋を迎え枯死しだしたヒシの群落を一部除去しました。

この作業は2週間おきに、あと4回実施します。活動に協力いただけるボランティアを募集しています。

(事業詳細・募集要項は4Pを参照)



アーネスト サトー (1843 ~ 1929)

イギリスの外交官。文久二年(1862)20歳の時、北京を経て横浜に到着。イギリス公使館付き通訳生となった。日本語に熟達し、尊攘派の薩長の武士達とも交わった。文久三年の薩英戦争には英軍艦アーガス号に乗っていた。慶応三年(1867)日本海側における開港調査にあたった英公使のパークスに随行して、海路新潟から8月7日七尾に上陸。8月12日金沢到着。その前日、津幡宿・弘願寺前の旅館「西島屋(現・西島薬局)」に泊まった。

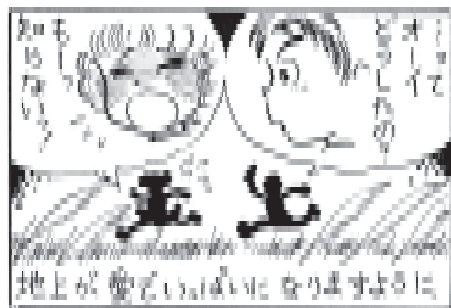
同行は二等書記官のA・B・ミットフォード(1837~1916)。彼らが鎖国以後、北陸の庶民が見た最初の西洋人であった。

サトウの日記には志雄に泊まり、津幡は通過、金沢へと向かったことになっているが、ミットフォードは「宿場町として繁栄していた津幡に着いた。そこには上等な旅館があったので、一夜を過ごすことになり、素晴らしい日本料理を味わうことが出来た。」と記述している。

【註】サトウは1870年日本女性・武田 兼(たけだ かね)と家庭を持ち(正式な結婚ではない)二男一女にめぐまれた。次男武田 久吉(明治16年生まれ)はロンドン大学で学び、日本を代表する植物学者として高山植物に関する優れた研究業績を残している。

隠れキリシタン

明治二年(1869)十一月、弾正忠(だんじょうちゅう 明治の司法官)渡邊 昇が長崎へ出張指揮をとり、浦上天主教徒であった浦上村民3,300人を捕縛し、それを二十一の藩に預けた。(当時、明治政府はキリスト教を邪宗門として禁止していた。) 二十一の藩に金沢・富山・大聖寺の三藩が含まれていた。同年12月、所口(今の七尾市)まで船で送られた徒刑人たちは、前夜泊



まった高松から津幡を経て金沢の卯辰山へ送られた。その数516名。富山へは42名。

金沢藩は彼らを、戸主は「織屋」家族を「湯座屋」という建物に分けて監禁し、改宗を迫った。しかし、彼らは信仰を捨てようとせず、また外国からの強い抗議もあって、明治六年(1873)藩は彼らの帰郷を許したが、その時すでに102名が死亡していた。 先年、卯辰トンネル工事中に発見された白骨体は彼らだったかも知れない。

金沢地方で夏に好んで食べられる「泥鰌のカバヤキ」は隠れキリシタンが始めた料理と言われている。 卯辰山には「長崎キリシタン殉難者碑」が建っている。

(河北潟歴史委員会 宮本 眞晴)

2004年度河北潟研究奨励助成の成果について

前号に続き、2004年度河北潟研究奨励助成報告書より、成果概要をお知らせします。内容は一部省略してあります。なお、紙面の都合上、残り1名の報告書は次回とします。

助成研究2

「河北潟地域の陸・淡水産貝類相」 野村 卓之

河北潟は、大規模干拓事業により、その水辺環境は大きく改変されてきた。一方で、その周辺には丘陵地があり、現在でも自然度の高い地域は少なくない。しかし、近年は高架道路や大型ショッピングセンターの建設などが行なわれ、周辺地域の水辺環境にも改変の危機がせまっているといえる。また、開発行為による在来生物の減少だけではなく、外来種の侵入による生物相の攪乱といった問題も懸念される。

河北潟の環境保全を考える上での基礎資料として、地域の生物相の記録は必須であるが、現在までのところ、河北潟地域の陸・淡水産貝類の分布資料は断片的なものにすぎない。そこで、2004年7月から2005年6月まで、河北潟とその周辺地域の70箇所について、陸・淡水産貝類の分布調査を行なったので報告する。

方法

2004年7月11日～12日、10月2日～4日、11月1日、11月21日～23日、2005年5月30日～6月1日に、河北潟とその周辺地域の70箇所を踏査して、陸・淡水産貝類の分布調査を行なった(図1)。採集用具は、水棲種用に各種たも網、陸棲種探索用に鉤棒を用い、1箇所につき1時間程度で採集した貝類を記録した。

結果・考察

1年を通して12日間の調査を行なったところ、水棲種22種、陸棲種27種、合計49種の貝類を確認した。

タイワンシジミやハブタエモノアラガイなど、分布拡大が懸念される外来種がいくつか確認された。タイワンシジミはすでに丘陵地にまで拡がっており、マシジミはきわめて危機的状態にあるといえる。今回の調査でもっとも出現箇所が多かったのは、外来種であり、汚染環境に強いサカマキガイであった。全国に分布が拡がりつつあるコモチカワツボがNo.36から確認されたが、ここではすでに高密度状態であった。外国産であるインドヒラマキガイが1個体のみ確認された。定着の有無等の継続調査が望まれる。

2004年に新潟県新潟市中権寺のドンチ池で発見されたヒラマキガイの一種(野村, 2005)と同種と思われるものがNo.8と9から確認された。未記載種の可能性があるが、外来種であることも否定できない。いずれにせよ、学術的価値はきわめて高い。

汽水棲であるカワザンショウガイが堤防の河口側に多産していた。河北潟本湖には、ドブガイやマシジミ類が生息すると考えられるが、今回の調査方法では、湖岸で打ち上げ貝を確認するにとどまった。カワニナは、全国的に海岸付近から山間部まで広く分布するが、河北潟地域では平野部には分布せず、周辺の丘陵地や山間部に限定されている。干拓によって淡水化された地域に分布が拡大できない要因が何かあるのか、興味を持たれる。森林棲のクロイワマイマイの亜種であるノトマイマイは、河北潟地域では比較的生息数が多く、丘陵地では人家付近でも普通に見られた。平野部では、海岸砂丘の林内や河川敷の樹木、神社社叢などに生息している。丘陵地の神社社叢では、生息域が局限されるハリマムシオイガイやコオオベソマイマイが見られた。保存状態の良い社叢では、出現種数が多く、生息密度も高い。そのような場所では、その地域古来の貝類相が保存されている可能性がある。外来種の動向など、今後の定期的な継続調査が望まれる。

お知らせ

平成17年度 いきづく湖沼ふれあい事業について

1面でご紹介しましたが、環境省の委託を受けて、水辺へのふれあいを深めながら、河北潟の水質浄化と希少植物の保全をおこなうという取り組みを実施します。具体的には、水草等の除去作業とその前後の水質測定の実施、また成果発表のシンポジウムを開催するというものです。

シンポジウムについては現在詳細は未定ですが、以下に、水草除去作業についてお知らせします。できるだけ多くの方々に参加していただきたいと思っております。

【目的と内容】

秋に川や水路を見ると、ヒシのような水生植物が水面を覆いつくしている場所があります。それらは冬をむかえる前に一斉に枯れてしまいます。枯れて水中に栄養塩類が流れ出るまえに、水辺からひきあげ、富栄養化の防止に貢献します。

もともとふつうにあった水生植物が、いま絶滅寸前の状態です。水辺の形状、水質、外来種など原因はさまざまです。生育旺盛な外来種は、追い打ちをかけるように希少な植物を絶滅させてしまいます。外来種の草取りをして、希少な水生植物の保全につとめます。

【具体的な作業】

地点1：絶滅寸前のトチカガミを救う

西部承水路のトチカガミが生育する河北潟の唯一の地点でおこないます。増えつつあるチクゴスズメノヒエをとりのぞきます。

地点2：ミクリ生育地を保全する

ミクリが大群落をなす、河北潟で唯一の地点である中央幹線排水路で実施します。この群落に侵入してきた若干のチクゴスズメノヒエの群落を除去します。また、ヒシがこのあたりの水面を覆っており、枯れて下へ流れた

り、腐る前にヒシを引き上げます。

地点3：アサザの群落をまもる

東部承水路につながる水路の1地点で、アサザの群落が毎年みられます。人工的なコンクリート水路で、これまでアサザ以外の植物はあまり生えていませんでしたが、ここにもチクゴスズメノヒエがはいってきました。すべて除去します。

- 作業実施要項 -

【実施日】平成17年10月30日(日)、11月13日(日)、11月27日(日)、12月11日(日)
各9:00～15:00

【集合場所】津幡漕艇場前(津幡町)

【集合時間】午前9:00

【内 容】現地集合後に3地点に分かれ、同時に水質調査を実施。その後各地点の目的に合わせた草取り作業をおこなう。

【参加方法】作業に参加される方は登録が必要となります。お手数ですが河北潟湖沼研究所友の会までお申し込みください。



「かほくがた」 VOL.11 NO.2

2005年10月24日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会
〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435